



- ゴミは必ずお持ち帰り下さい。
- 芝生内での犬の散歩はご遠慮下さい。
- 環境保護・保全にご理解とご協力を。

二戸市埋蔵文化財センター

〒028-6101

岩手県二戸市福岡字八幡下11-1

TEL 0195-23-8020

FAX 0195-23-8044

日本中世史終焉の場

国指定史跡

九戸城跡

九戸城跡に残る石垣と月

政実無残。 太閤仕置の 大乱に散る。

◆秀吉の全国統一完了——豊臣秀吉は、奥州再仕置（九戸征伐）と称して全国に出動命令を出した。そこには総大将に豊臣秀次以下、徳川家康・伊達政宗・石田三成・蒲生氏郷・上杉景勝・浅野長政・井伊直政・大谷吉継・堀尾吉晴・佐竹義重など、錚々たる戦国武将の名が連ねられていた。

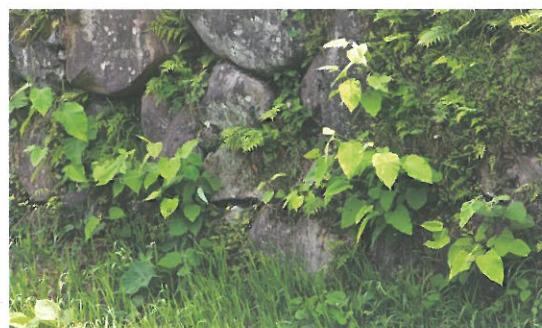
南部の二大勢力

鎌倉時代の初めに発祥した奥州南部氏は、26代信直が盛岡藩を確立し幕末には陸奥10カ郡・20万石を領し、最後の藩主は15代を数える大名でした。天正8年（1580）、24代藩主晴政が死去したことで、娘婿の田子信直支持派と誕生したばかりの遺子晴継（25代）を擁護する九戸派が対立、その後、晴継も13歳で謎の死を遂げ、世継ぎ騒動は混迷の度合いを深めていきます。

結局は信直が26代目を継ぎ決着しますが、この嫡流と傍流に関しては、永禄6年（1563）の室町幕府「諸役人附」の「関東衆」の中に「南部大膳亮」と「九戸五郎」が併記されていることから、南部氏と九戸氏は同格の別族であるという説や、併記は同族並立状態が依然として続いていた北奥羽の様相を反映したものである説もあります。要するにこの時代、南部は二大勢力が対立する時代でした。

6万対5千

天正19年（1591）3月、九戸政実がついに挙兵し、南部を二分する戦いに突入します。豊臣秀吉の重臣



前田利家を通じ、自らが南部家本宗であることの確認の起請文を送っていた信直に対し、秀吉は領地安堵の書状を与えて26代当主を公認、緒戦は九戸方が優勢でしたが徐々に形勢が逆転し、政実天下人に背く謀反人として奥州仕置軍と戦うことになりました。

9月2日、馬淵川流域をはさんで、一説には再仕置の上方軍勢6万に、九戸籠城軍は約5千人が対峙、熾烈な攻防が始まりました。

偽りの和睦

9月4日、難攻不落の城に苦戦を強いられた上方軍は謀略を巡らせ、九戸氏の菩提寺長興寺の和尚（一説には4代目住職薩天）を使者にたてました。持たせた手紙の中で政実の武勇を讃え、女子供の助命を条件に降伏を説得させました。

謀略とは知らぬ和尚と、一人でも多くの一族郎党を救おうと和睦に応じた政実でしたが、開門した城内には火が放たれ、城内の者は無切りにされたと伝えられています。また、政実と7人の重臣は豊臣秀次の待つ三ノ迫（宮城県栗原市）で斬首されました。

Summary

The ruins of Kunohe castle is an old battlefield where Hideyoshi Toyotomi had completed generalization of Japan. After the successful siege of this castle, the medieval period had come to an end. Just after the war, Hideyoshi ordered his men to improve this castle, and gave it to Nobunao Nambu, one of his men, a Commander of this area.



兵共が夢の跡。 発掘調査による 新事実。

畑とうっそうとした樹木の下に、
中世平山城として
東北随一の規模を誇る
九戸城が眠っていた。

中世城郭から近世城郭へ

昭和10年（1935）に国の史跡に指定された九戸城は2つの時代が併存しています。まずは九戸光政の代の頃（明応年間＝1492～1501）に築城されたといわれる中世平山城の九戸城で、本丸・二ノ丸・三ノ丸を除く部分が九戸城そのままの姿と考えられます。九戸城落城後、上方軍によって普請された本丸・二ノ丸・松ノ丸を加えた現在の姿が近世城郭、福岡城の姿です。

九戸城は落城後再普請されて福岡城と改名されたのですが、地元では今もって九戸城と呼んでいます。

本丸跡に眠る九戸城

平成元年度（1989）から開始された九戸城の史跡環境整備事業により、落城直後、秀吉の命によって蒲生氏郷らにより現在の本丸跡・二ノ丸跡部分を中心に安土桃山様式の城に築き直されたことが分かりました。その本丸整地層の断面には焼土や木炭、火を受けた生活遺物や火縄銃弾丸など戦禍の痕跡が見られ、さらにその下位に地上では観察できない堀跡や溝跡などの九戸城時代の遺構が残っていることが明らかになりました。

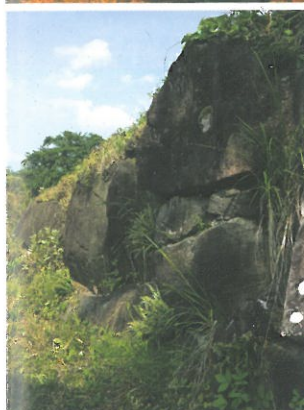
四肢骨の刀創と撫切り

平成7年（1995）、二ノ丸大手門近くで九戸城落城直後に掘られたと思われる粗末な墓穴から、首のない人骨十数体分が発見されました。これらには無数の殺傷痕や刺突痕があり、平成20年（2008）に東北大学医学部で再調査の結果、地元に残る伝承や後世の軍談記にある撫切りの犠牲者と考えられています。

また、平成11年（1999）には二ノ丸跡から柵に囲まれた工房跡と考えられる竪穴遺構群が検出され、そこから漆の付着した貝殻や漆に金泥を塗り込めた豪華な鎧の札（さね）などが出土しました。このことは、九戸氏が城内で武具を仕立てるほどの力があつたことを示しています。



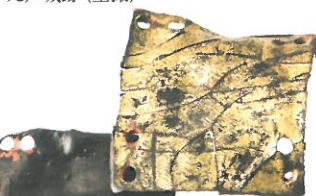
九戸城跡（空撮）



本丸隅槽（すみやぐら）
跡脇石垣



大腿骨上部の刀創
（東北大学出版局『骨が語る
奥州戦国九戸落城』より転載）



漆塗りの上に金泥を使用した
鎧の札（さね）



本丸跡出土遺物の火縄銃弾丸鋳型



①土井晩翠の歌碑

昭和14年（1939）、リンゴ狩りに訪れた晩翠が九戸城の悲話を聞き、書き残した「荒城の月」を刻んだ碑です。



②本丸の石垣

東北最古といわれる城郭の石垣は、天正19年（1591）の落城直後に築かれ、蒲生氏郷をはじめとする大名の配下で穴太衆（あのをしゅう）という石垣構築専門集団によるものと考えられています。



③本丸隅櫓跡

敵情遠望や射撃のために設けられた隅櫓のあった場所で、海拔139mと最も標高が高く眺望が効きます。登ると上方軍の布陣した山並みも望めます。当時は数間の高さの櫓があった場所です。



九戸城古図（二戸市教育委員会所蔵）

風渡る、眠れる古城。 [九戸城跡散策ガイド]



④本丸虎口（こぐち）跡

天正時代の様子を良く残したクランク状の出入口です。春には桜花が咲き乱れる景観になります。



⑤二ノ丸跡

現在見える姿は本丸と共に福岡城の姿です。九戸城時代にも一部、土塁が構築されていた可能性があります。また、東側では堅穴式の工房や大型の建物が立ち並んでいた区画が見つかっています。

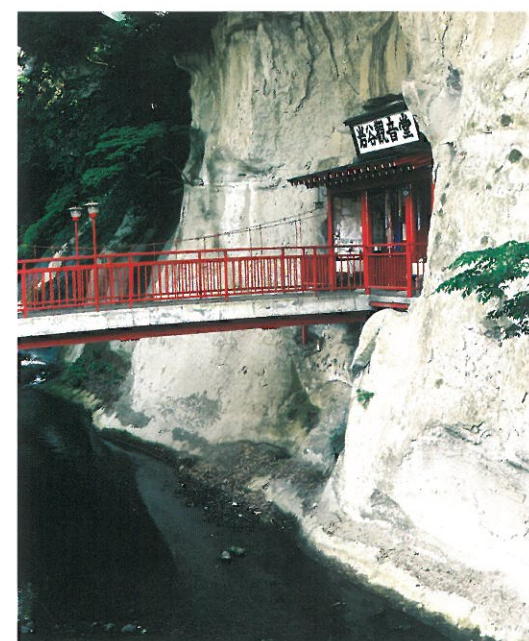


⑥白鳥川を望む断崖

二ノ丸崩手（からめて）門跡から堀底道を北へ進むと、白鳥川の断崖を眼下にすることができます。まさに難攻不落の城であったことが実感できる景観です。



九戸城跡鳥瞰図



⑦岩谷観音堂

城の北西隅、白鳥川と馬淵川の合流点を望む断崖に造営された堂宇で、奥州三十三観音巡りの札所でもあります。傍らに九戸の乱の戦没者鎮魂のため造立され、その後洪水で流失した「千補陀堂」（せんぼだどう）の建立碑があります。

九戸城ボランティアガイドの会活動日

*土・日・祝日 ●10:00～15:00

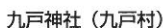
*ガイド料無料

*連絡先

石切所公民館 ●0195-23-3990

二戸市埋蔵文化財センター ●0195-23-8020

政実関連史跡を巡る



政実公の首塚（九戸村）

九戸古梅園（二戸市）

小祝の祠（二戸市）

姉帯城跡（一戸町）



長興寺（九戸村）

亀千代斬殺の場
(青森県田子町)

亀千代斬殺場所には三ノ迫、村松の蒲生陣内のほか、「田子照夫家文書」や伝承に田子町佐羽内が挙げられています。